

「正論」の2021年1月号に明治天皇の玄孫である竹田氏の記事がありましたので、情報共有いたします。

<https://www.fujisan.co.jp/product/1482/new/>

4ページにわたって書かれておりましたが、個人的に目を引いた部分のみピックアップしてみました。

- ・「書面を廃止してデジタル化することによって、自動的にその書面に押印が不要となるというなら分かるが、書面を廃止する前に押印だけを廃止することに何の意味があるのだろう。」
- ・「行政手続きの押印廃止は、虚偽の申請や申告を増やすことに繋がる可能性がある」
- ・「判子は・・・便利で良い文化であるから長年用いられてきた」
- ・「日常生活に用いてきた判子は実は便利なものである」
- ・「判子を渡すこと自体、委任があったものと推定されるため、委任状や印鑑証明なくして代人に意思表示を委ねることが可能である」
- ・「近年は社会全体でデジタル化が進みつつあるが、ハッキングの手口は巧妙になり・・・他方、たとえ判子が盗まれても、直ぐに改印すれば悪用されることは防げるため、自分でリスク管理することができる」
- ・「押印は意志を担保するものである。・・・また、押印する瞬間に、本当にそれでよいか、もう一度考え直す機会にもなる」
- ・「「押印廃止」というのは至極合理的な考えだと思う。だが、一見合理的な考えには予想外の落とし穴が隠れている場合がある。」

といったことが書かれておりました。

文章の最後は、このような文章で締めくくられておりました。

- ・「文化に合理主義のメスを入れると、文化という文化はことごとく破壊される。今はハンコ業界が悲鳴を上げているだけで、他の業界は対岸の火事と思っている様子だが、一旦この流れを許したら、あらゆる日本文化が侵食されるだろう。判子問題は、保守全体で立ち向かっていかなければならない。合理主義の行く末は天皇の廃止である。」

当店は「デジタル化」による社会の効率化に賛同いたします。

一方で、日本人としての歴史文化アイデンティティである「印章文化」を大切に、後世に伝えていくこと、そして、日本文化の美しさ尊さを世界に広めていこうと考えております。